

生命の食である自然栽培農産物を作る事が二酸化炭素削減（地球温暖化対策）になる！

< 地方都市から始めよう！ >

444の自治体が宣言 ゼロカーボンシティの意味と取り組み事例を紹介



Photo by Jason Blackeye on Unsplash

ゼロカーボンシティ実現に向けた課題

ゼロカーボンシティの実現に向けた取り組みには、まだ多くの課題があると指摘されている。その一つが、省エネに向けた取り組みを促すだけで終わってしまうことだ。地域がより主体的に、「二酸化炭素排出量実質ゼロ」のために何ができるのか、考えていく必要がある。

また、人々の生活範囲は一つの自治体内のみで完結しているわけではない。そのため、地域によっては近隣の自治体が協力して対策を行ったほうが効果的なケースがあるだろう。さらに、小さな自治体が単独で取り組もうとすると、その負担がとてつもないことも指摘されている。

このような課題を解決していくことも、2050年の二酸化炭素排出量実質ゼロを実現するためのポイントとなっていこう。

2050年までのゼロカーボンシティ実現に向けて

地球温暖化は、世界が抱える非常に大きな課題である。2015年に合意されたパリ協定においても、そのリスクと今後求められる具体的な対策が指摘されている。ゼロカーボンシティは、課題も残っているが、日本が目標を達成していくために効果的な取り組みになるだろう。

二酸化炭素実質ゼロ宣言によって、脱炭素化社会に向けた取り組みは、より一層身近なものになるはずだ。

地球温暖化を止められるのは自然栽培農法！（増加分をゼロに）

World Now

2019.05.23

「4パーミル」で地球は変えられる 土の力
を使った温暖化対策、世界が注目

不耕起自然栽培により土壌が回復！



農産国ブラジルでは、不耕起栽培を採用する農家が増えている。マトグロッソ州南部の畑では、大豆の収穫後、耕さずにトウモロコシの苗が植えられている



不耕起農業によって有機物が増えてきたブラジルの土。土の中に草の根や茎が残っているほか、腐植が増えてやや黒みを帯びている